

第16回 軽井沢22世紀風土フォーラム基本会議

【日時】 平成30年12月20日（木） 14:00～16:05

【場所】 軽井沢町追分公民館

【出席者】 基本会議委員：志立正嗣委員、鈴木幹一委員、須永久委員、
中嶋聞多委員、貫名礼恵委員、藤井俊子委員、
石山武委員、瀬川智子委員、高尾幸男委員、
青木健太郎委員、上原梓委員、佐藤一貴委員、
鷹取健太委員

内 容

1. 開 会

2. 議 事

○ファシリテーターによる進行

【導入】

ファシリテーター

本日は、報告事項と今後の進め方についての段取りが中心となる。皆さんと活発な意見交換をしながら進めたい。

会長

消費税増税、東京オリンピック、大阪万博と世の中が激動しており、色々な意味で激変が起きると思われる。消費税増税に伴う消費の低迷が想定され、それを食い止めるために、政府もキャッシュレス化のバックアップを自治体に対して進めているところである。また、東京オリ

ピックでは、国内外から観光客が殺到し、東京の交通網が破綻する可能性がある。交通対策のビッグデータ、ITテクノロジーを使い対策を考えなければいけない。

町長の掲げた、軽井沢 22 世紀風土フォーラム、軽井沢グランドデザインをバックアップする意味も含めて、従来の概念ではなく新しい枠組みで、情報のアンテナを張り巡らせる必要がある。特に IT テクノロジー、人工知能、この辺が軽井沢の将来を左右する重要なポイントになる。皆さんにも情報収集していただきたい。

会議の進め方は、目的を掲げ最終的な落としどころまで意識した上で、必ず結論を出しながら進めていきたい。

各プロジェクトチームの座長には、プロジェクトを引っ張っていただき感謝している。引き続きお願いしたい。

(1) 事業者認定制度について

○総合政策課企画調整係課長補佐より、良質なまちづくり貢献事業者認定制度について（案）の説明

・概要及び目的

景観形成に取り組み、かつ地域貢献活動を行う事業者を、「軽井沢町良質なまちづくり貢献事業者」として認定する制度で、認定要件を満たした事業者を町が認定することにより、事業者の自発的な景観形成の取り組みや地域貢献活動の推進を図り、その取り組みを広く周知することで、良質なまちづくりに寄与することを目的とする。

・委員の役割

基本会議委員（職員委員除く）には、事業者認定検討会議（仮称）に所属してもらい、対象となる事業者について、事業所の外観写真を含む申請内容から意見、提案を提示してもらう。

【意見交換】（発言順）

ファシリテーター

タイムフレームはどうなるのか。

担当課

3月までに要綱を制定し、その中でガイドラインも作成し、新年度より実施できるよう進めていく。1月末頃までに総合政策課企画調整係に意見を頂ければ、参考としたい。

A委員

中身やフォローアップは固まっているのか。

担当課

まちづくり基本条例で定めている事業者のうち、優良事業者に自ら申請してもらい、申請内容を審査した上で認定書を渡す形で考えている。

A委員

基本会議は、実施段階からの参画でよいのか。

担当課

申請事業者が揃ったところで、事業内容や事業展開を一覧にしてお示しし、それを審査していただく。

B委員

事業者は、申請するのに費用が必要なのか。

担当課

申請書類の様式にて申請してもらおう。その時に、外観等の写真も提出してもらおう予定なので、実費は掛かるが申請費用は取らない予定。

B委員

軽井沢町の景観を支えている主要な事業者が全て認定されるのであれば素晴らしい。しかし、主要な事業者が申請するか分からない状況で、そういう事業者が入らないと認定制度の格が保てるのか分からない。なぜ自薦のみにしたのか。

担当課

自分の事業をアピールしてもらおう形を大事にしたいと自薦のみとした。ただし、検証する中で他薦も認めた方がよいという意見等があれば、検証次第で変わる可能性もある。

ファシリテーター

結果を踏まえて、来年度以降は他薦も含める可能性もありえる。

C委員

事業者の範囲は、まちづくり基本条例で町内においてまちづくり活動を行うものとなっているが、どういう範囲と考えているのか。営利、非営利、法人格を有するなどあるのか。

担当課

軽井沢町で活動している事業者でまちづくり基本条例の趣旨に沿って実施していれば、それ以上固くは考えていない。どんな手が挙がるのかを見なければいけない。

C委員

事業内容が合致すれば、広く捉えてよいか。

担当課

実施前ではっきり言えない部分もあるが、現時点では広く考えている。

ファシリテーター

実施している事業をベースに、正しく評価する事が原則となる。

D委員

東京都文京区で実施している「文の京都市景観賞」の中の「ふるさと景観賞」に近いと思う。4部門①「景観創造賞」（建物などにより地域にふさわしい景観を創造しているもの）、②「ふるさと景観賞」（心のふるさととして身近に親しまれている）、③「景観づくり活動賞」（美しい景観づくりに貢献している住民および団体の活動）、④「景観広告賞」（周辺景観に配慮し、調和している看板・広告物）あるが、アーカイブされている。軽井沢でも、例えば迫分の建物が受賞すれば、地域にとっても受賞者の歴史としても繋がっていく。認定数が10件程度なら選ばれしものという喜びにも繋がる。そういう仕組みや方法も検討に入れていただきたい。

担当課

事業者なので何百という単位で応募があるとは想定していない。受

賞して良かったと思われる制度にしたいと考えている。

D委員

新築だけでなく、保存や新しくリノベーションした場合等も含めて応募できるような募集要項がよい。また、外観だけでなく活動について文章を入れる部分等もあるとよい。

担当課

軽井沢町には、緑の景観賞等他にも表彰する制度があるが、今回は、景観に配慮しつつも軽井沢町の良質なまちづくりに貢献している事業者という、事業者にスポットを当てた制度にしたい。

D委員

NPO法人なども含めて事業を行っているという意味か。

担当課

例えば、軽井沢ブランドとして商品を作り世に出している事業者でもよい。建物や外観で判断するのではなく、事業内容に注目する制度を考えている。

B委員

結果ではなく、姿勢とか業そのものを評価するとよい。

ファシリテーター

始めてみて段々と制度を充実させていくのが基本的な姿勢だと思う。評価するにあたり、景観は誰がみても明らかなのであまり文句は出ない。しかし、中身については問題も出てくるので、最初は、小さく生んで大きく育てるといって、多くの人に理解されやすい制度にしたいと考えている。本質的には活動を評価する事が一番大切であり、制度が潰れてしまっただけでは元も子もない。

担当課

頂いた意見は大事な部分なので、皆さんに伝わるような制度にしていきたい。

(2) 各プロジェクトチーム（以下、PTという。）の活動について

○ファシリテーターより、軽井沢 22 世紀風土フォーラムにおける今期の全

体スケジュール(基本会議、各PT、エリアデザイン具体化に向けた検討)
について説明

○コミュニティ共創PT座長より、コミュニティ共創PT進捗報告について
説明

- ・コミュニティ共創の取り掛かりとして、多様な住民の共通課題である「防災」をテーマとし、「軽井沢における災害」「防災における課題」「解決アイデア等」について議論を重ねてきた。
- ・今後は、①解決策アイデアの実現方法の整理、②更なる課題・アイデアを求めてのワークショップ開催、③他自治体・諸外国の事例探索を柱に検討していく。
- ・軽井沢では民間の自走があまり見られないとの問題意識から、コミュニティ共創PT自体が主体になるのではなく、住民の皆さんの自走をサポートする形の方向性で進めていく。

【意見交換】(発言順)

D委員

軽井沢町社会福祉協議会と軽井沢青年会議所と共催で、2、3月に開催される防災講座の企画に携わる事になった。軽井沢ブランドや産業を守る担い手の中心人物である軽井沢青年会議所の人から話を聞くと、浅間山の噴火や台風等で気象警報が出た場合、客を守るにはどうすればよいのか等具体的な悩みが聞けたので、それを東京大学大学院工学研究科、都市火災等の専門家に相談したところ、軽井沢の防災のために何かしたいという運びになった。軽井沢で仕事をしたい研究者は多いので、そういう研究者を私が繋ぎ、住民の悩みを聞き、解決策や具体的な選択肢を専門家に任せるコラボレーションやコミュニティ共創をアレンジしていければよい。防災の専門家は専門家の数だけ言う事が違う。だからこそ色々な人を集めて実施する事が大事である。消防団や区長会長や町役場等、立場によって意見も違うので、多様な価値観も尊重しつつ、大きな器で受け止めていきたい。防災に関する相談があれば、

専門家に繋ぐのでお話いただきたい。

A委員

コミュニティ共創P Tの最終目標は、最新技術を使い分かりやすく誰でも参加できるような形の情報インフラを作り上げる事だと思う。防災は誰もが心配で興味ある分野なので、情報インフラや電子化インフラができれば色々な事に応用可能となるので期待している。

座長

軽井沢型の未来防災という新しいテーマで考えるきっかけ作りをし、そこから出てくる色々な課題をテーマとして掲げ、インフラをどう整えるのかが最終的なゴールとなるが、それは年度内に出来る事ではなく、風土フォーラム全体の課題でもある。インフラ作りをする為に、実験等も行いつつ、コミュニティ共創P Tの趣旨の試みも取り入れていきたい。

各P Tは入り口が違うだけで同じテーマを追いかけているので、P T間の連携も図りたい。軽井沢町は風土自治が弱いので、風土フォーラムで弱い部分をどう発展させていくのかも私たち共通のビジョンだと思う。会長のもと、官でも民でもない中間的な立ち位置にいないければ、私たちの存在意義がない。

ファシリテーター

基本会議の場で共有していく事も大事。

B委員

直接的にI Tインフラを作るように聞こえがちだが、ここがそれを担うのは違うと思う。風土フォーラムやP Tが、情報インフラに係る予算をとり実施するのではなく、風土自治の文化、フィロソフィーをこの町にいかにか浸透させるか、どのように動くとこの町が動いていくのか、民間や自治をしている人が実感できるか等がインフラそのものだと思う。I Tインフラは、LINE や Facebook 等たくさんあるので、世の中にあるインフラを活用しあまりお金をかけず、もしくはそういうインフラをしている人に投資してもらい、軽井沢のインフラを整えていく考え方がよい。その為には、委員がより世の中のI Tを勉強して、どんな

インフラを活用できるかを引っ張る必要がある。その為の情報提供は私もしたい。

ファシリテーター

自走し、資金を求めない事が一番大事な精神だと思う。

会長

防災は非常に幅や間口が広いが、例えば軽井沢ウェディング協会に属するホテルでは防災訓練は実施していても、ウェディング中に地震があった場合の訓練は実施していない可能性がある。ウェディング中を想定した防災訓練等の草の根活動からスタートし、住民の意識を高める事が大事である。具体的なアクションも検討していきたい。

C委員

住民主体のワークショップはよい方法だと思う。チームみらいえPTも、子供参加型のイベントを実施しているのではなく、子供が主体となり色々な経験をしながら、過去、現在を見て、未来を考えてもらう目的で実施している。「参加」はイベントに加わるだけなので、ここでは住民「参画」にしてほしい。ここでいう住民は「町民、別荘所有者、町内就業者、通学者」なので、そういう人達が参画して実施し、私の言葉で言う「プラットフォーム」という問題解決のためのフレームワークを共通の方法として進めていければと思う。

○交通関連PT座長より、交通関連PT進捗報告について説明

- ・過去3回のPTで、町役場・町内2事業者へのヒアリングを実施し、現在の交通渋滞問題の実態把握をした。
- ・今後の方向性案として「軽井沢らしい快適な移動」を念頭に、①他の事例や施策の動向等整理、②実現可能な施策議論、③住民参加のワークショップ開催、④年度まとめ、を計画している。

E委員（交通関連PT構成員）

- ・渋滞回避のために多くの車が裏道を通り危険を感じる事や観光客が渋滞で困っている事から、快適性を求めるにはどうすればよいかとの流

れになり、コンセプトは「軽井沢らしい快適な移動」とした。

- ・各事業者の話聞き、個々で対策を検討していくには限界があると感じた。交通関連PTや風土フォーラムが、繋ぎ役やきっかけを与える立ち位置になり、住民や軽井沢に係る人々の意識を高めていく役割を担わなければいけない。渋滞問題を課題と感じている人はたくさんいるので、そういう人たちが意見できる場を設ける必要がある。きっかけがあれば自ら発言し行動する人はいるので、アクションに繋がり、それこそが風土自治だと思う。軽井沢ランドデザインのように、今後の将来像や方向性等を示せば、任期が終わってもそれを基に議論を続けていける。

【意見交換】（発言順）

B委員

渋滞対策は、軽井沢を通過し他へ行く人をどうさばくかではなく、軽井沢を訪れる人が多すぎる事に問題があるとするなら、交通の事だけを解決しようとしても難しい。ディズニーランドで例えると、ランドを広げるか、入場制限をするしかないと思う。ランドを広げる事は、軽井沢をより開発して楽しめる場所を増やす事だが、軽井沢に係る多くの人が反対すると思われる。人を横へ逃がす方法は、軽井沢だけでは厳しい。近隣の市町村とも協働しエリアを魅力的にして目的地を広げる事が、もしかすると交通の先にある課題かも知れない。そうすれば近隣の市区町村も潤い、軽井沢の渋滞も緩和される。また、入場制限にするとどこかで軽井沢に来る人を止めなければいけない。方法は税金をとるか、軽井沢のインターチェンジを閉める等の思い切った施策を講じなければ、車が軽井沢に入ってきてから色々考えても難しい。これは全体で考えなければいけない問題であり、個別の事業者だけで話していても解決しない。

座長

対応策例として、車の容量オーバーに対して空間的分散が考えられる。一つに集中させず軽井沢全体、あるいはもっと広いエリアに、制限

するのではなく多くの場所に分散させる事を考えれば、観光面においてもよい方法となる。また時間的分散として、公共交通機関への切り替えや課金制度の事例等を参考にしながら、軽井沢を訪れた人に快適な軽井沢を味わっていただき、町の発展にも寄与する方向で議論を進めていきたい。

D委員

大渋滞時に火事が起きたらどうなるかというシミュレーションも大事になる。専門家も交えて最悪の事態を想定した訓練等を、他で検討していなければ、ここで働きかける必要もある。例えば交通関連PTとコミュニティ共創PT協働で、大渋滞時の災害訓練を実施すれば、危機意識もあがるので検討いただきたい。

会長

渋滞対策には色々な切り口があるが、駐車場を増やせば解決する問題ではなく、私は総量規制がよいと思う。軽井沢駅に近いホテルでは、7割程度の客が新幹線で訪れていると聞いた。軽井沢は、新幹線が通るリゾート地なので、新幹線を利用して来てくださいというPR活動を実施し、車で来る人を減らせれば渋滞も緩和する。例えば、JRと連携して新幹線とレンタカーを組み合わせた「トレン太くん」をPRする方法もある。モータリゼーションの時代と違い、都心でも今は車を持たないライフスタイルが流行っている。カーシェアリングや色々なテクノロジーを活用すると共に、新幹線や高速バスで来てもらうキャンペーンをしなければ渋滞は減らない。

現在、軽井沢駅に北陸新幹線かがやきが停車しない理由の一つは、軽井沢駅の乗降客数が少ないからである。2022年には北陸新幹線が福井まで延び大幅なダイヤ改正が行われるので、軽井沢駅の乗降客数を増やせば、そのタイミングでかがやきが軽井沢駅に停まるようになる。新幹線を利用して来てもらい、レンタカーで動いてもらう方法が最大のポイントだと考えている。交通関連PTにおいても、総量規制に絞った検討をしてほしい。

○チームみらいえ座長より、チームみらいえPT進捗報告について説明

- ・平成30年10月28日（日）「発地市庭周辺まち歩き～ドローンで見よう！～」を実施した。ドローンで今の発地を眺め、昔の航空写真との見比べをした。また、フォトゲーミングのゲーム要素を取り入れたまち歩きを行いながら、地域の移り変わりや地域の人たちとの交流を通じて、軽井沢で起きている新しいコトやモノの発見をした。11名の児童が参加した。
- ・次回、平成31年5月中下旬頃「追分まち歩き楽しみたい」（仮称）を検討している。
- ・来年度末頃を目標に、これまでのイベントに参加した子供たちを対象に、軽井沢の未来構想プランのコンテストや体験を通して得た事を記事にする子供新聞のコンテスト等を検討していく。

(3) エリアデザインの検討について

○委託業者より、エリアデザインに関する進捗報告について説明

- ・過去2回にわたり、新軽井沢・中軽井沢・追分について、各地区のキーパーソンにヒアリングを実施した。今後、他のエリアを含め、更にキーパーソンへのヒアリングを実施し、年度内を目途にエリアデザインPTの人选検討に移る予定。

【意見交換】（発言順）

B委員

軽井沢グランドデザインの詳細報告でも、各エリアのヒアリング内容が記載されていたが、今回のヒアリングとは目的等が違うのか。

ファシリテーター

軽井沢グランドデザインは、基本的に外部の有識者を中心に作成した。軽井沢を相対的に日本全国の色々なところと比較し歴史の中に位置づけた場合どうかという事が描かれており、ヒアリングを重ね作成した形ではない。今回は、具体的にどう進めるべきなのか等を探るため

にヒアリングしている。

C委員

軽井沢グランドデザイン、エリアデザインで示されているのは、答えでなく問題提起であり、一つの回答や試案でもなく、これを基に住民参画で考えてほしいという事を、エリアデザインPTで実施していくのか。

ファシリテーター

その通りで、軽井沢グランドデザインをきっかけにして議論してほしい。全体のテーマは自走で、住民が考えて動いていく事がベースとなる。

C委員

軽井沢グランドデザインでは5つのエリアが掲載されているが、これを発表した時に自分の区が入っていないと思う人もいた。エリアは、自分の住んでいる地域をそれぞれの人たちで考えていくという捉え方でよいのか。

ファシリテーター

エリアは代表的な事例で、住んでいる人たちが考え議論していく。この中核的な話を決めた基本会議前会長から一言いただきたい。

第一期 基本会議会長

軽井沢グランドデザインは試し絵であり、これが正解とは思っていない。地元から何か具体的な提示がないと議論にならないという要求に答える程度の認識しかない。対象地域については、5つの核を中心に広げていけば、地域全体が何らかの形でどれかの特性に属するという展開を期待しつつも、駄目なら第6、第7のエリアがあってしかるべきとなれば、その時点で入れてもよいと思うが、あくまで例示である。軽井沢グランドデザインは書き込みも強いが、エリアデザインの書き込みは甘いので、あまり絵に捉われないでほしい。こうなるのが30年後、50年後という年次性とは縁のないものだと考えてほしい。

○傍聴者意見

傍聴人（町民・男性）

交通渋滞の対策方法として総量規制はよい考えだと思う。軽井沢に来る外国人の多くは、団体か新幹線利用者であり、マイカーで軽井沢に来るのは日本人である。その場合、例えばプリンスショッピングプラザで使える金券を、新幹線の往復切符と一緒に販売するサービス等、お金の換算して企業利益とし交通渋滞とのバランスをとりながら解決するのも一つの方法だと思う。

軽井沢は都心から交通の便がよいので、観光以外の産業基盤として、IT企業のシェアオフィスの中軽井沢を作り、景観的に統一されたスマートなイメージの家族で住めるような住居地を提供すれば、中軽井沢は医療機関も近く買い物にも便利なので、コンパクトシティの見本となる。うまく活かして新しい産業を目指せば、新しい生活の仕方となるのではないか。

○事務局より連絡事項

- ・風土フォーラム事務局に寄せられた意見等一覧について説明。
- ・平成30年12月13日、軽いざわざわVOL. 6を発刊した。
- ・副会長より提案のあった「軽井沢きき取り物語」の本を基本会議委員の希望者に貸し出す。

3. 閉 会